医学科
School of Medicine

高い学術能力と豊かな人間性を兼ね備え、患者さんに信頼される医師を育成する

学科ガイド

医学科は、高い学術能力と豊かな人間性を兼ね備え、患者さんに信頼される医師および医学・生命科学分野の優れた研究者を育てます。そのために、基礎医学と臨床医学の教育を行い、知識・技能はもちろん、日進月歩し、多様化する医学・医療に対応できる応用力を培います。同時に、医師としての倫理観や幅広い素養につながる日常生活での意識および行動を学生に求め、それを教員や医療スタッフがサポートします。また、亜熱帯という地域特性と東南アジア諸国との交流を生かした特色ある授業や課外活動も進め、国際性豊かな医師になることも教育目標の一つです。さらに昨今、医師不足の地域あるいは診療科の偏在などから明らかになってきた医師不足対策として「地域枠」を設けて学生定員を増やし、地域医療に貢献できる人材も育成しています。入試は前期・後期入学試験のほか、推薦Ⅱとして地域枠、2年次特別編入学（学士入学）（5名）の3種類の入学試験を実施し、多様な人材を求めています。

医学科は、基礎系と臨床系の分野が有機的に連関し、教育、診療、研究体制を整え、6年一貫教育を行います。医学科は学年制ですので、2年次、3年次、4年次への進級には、それぞれの学年で取得すべき単位をすべて取る必要があり、医学知識を段階的に学んでゆきます。4年次までは基礎医学系、臨床医学系の基礎的知識の修得、実験、実習が主体ですが、5年次からは患者さんを対象とした臨床実習を指導します。6年次の卒業試験を経て医師国家試験を受験します。これに合格して初めて医師となりますが、2年間初期臨床研修が義務となっています。各診療科は他の教育病院や地域医療施設と協力して卒業生の研修を指導します。研修後、多くの人は大学病院や他の病院の臨床医として、更に研鑽を積みます。臨床医として研究を行う者、基礎的な生命科学の領域の研究を目指す者や社会医学の分野で貢献しようとする者もいます。そのためには、大学院博士課程へ進学することが大事です。このように、医学科は卒業後も皆さんと関連が深く、ともに医療、医学研究に携わります。

curriculum

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次・6年次
主な授業科目	共通教育科目と並行して1年次から専門教育がスタートします。前学期には、医学概論・生命科学を通して医学の基礎知識・最新の医学のトピックを学びます。早期体験学習では、外来患者付添い実習や救急車同乗実習を行い、医療の現場、救急の現場を体験します。また、シュミレーション演習ではシュミレーション機器を用いた実習を通じて医師としての態度を学びます。後学期からは、組織学、生理学などの基礎医学がスタートし、人体の構造などについて学びます。	引き続き基礎医学を学びます。前学期には肉眼解剖実習、生化学、神経科学など人体の正常構造、生理現象とそのメカニズムについて学び、後学期には病理学、微生物学、免疫学などの講義・実習を通じて病気の発生するメカニズムについて学びます。また医学外国語を通して、医学者として国際的に活躍できる人材の育成に努めます。	社会医学・臨床医学の講義が始まります。前学期には薬理学、衛生学・公衆衛生学などを受講し、治療法の概念、病気の予防法などについて学びます。後学期には法医学、臨床医学がスタートします。神経疾患、運動器疾患、胸部疾患など系統別、部位別に診断法、治療法を学びます。さらに、早期病院実習を行い、近隣の病院で臨床医療を体験します。	3か月間、研究室にて実際の医学研究に従事します。研究室の教員指導の下で研究活動を行い、医学全体に深い造詣を持つ医学者の養成に努めます。さらに強い研究に対する意欲を持つ学生には、短期の国内・海外留学制度も用意する予定です。地域医療プログラムでは、琉球大学独自の取り組みとして久米島、宮古島、石垣島等で離島へき地病院実習を行います。臨床実習開始前には、標準評価試験として共用試験（CBTとOSCE）が実施されます。共用試験合格者は、臨床実習に進みます。	病院実習を全科行い、後半は、プライマリケア担当の科（内科・外科・小児科など）を中心にクリニカルクラークシップを行い、実際の医師の業務に近い形の実習を行ないます。

guidance | 学びからイメージする卒業後の進路

環太平洋 新時代 のセンター、沖縄でこそ学べる新しい医学・医療・生命科学があります。持続力を持った輝く医療人を育成します。

人生90年時代の到来を間近に控えた今、琉球大学医学部では持続力と自己改新力を発揮しながら生涯にわたって活き活きと活躍する医療人の育成を進めています。かつて世界屈指の長寿を誇った沖縄は最近10年の短期間に健康長寿が崩壊し、糖尿病や肥満症、高血圧症、慢性腎臓病が急増しています。多くの離島から成る亜熱帯・島嶼県ゆえに本州とは異なる地域特有の感染症や悪性腫瘍も大きな問題となっています。国際的にも極めてユニークな沖縄の医療特性に根ざして、生活習慣や環境・感染が健康障害をもたらす病態メカニズムを最先端の医学から学びとり、先進医学、急性期医療や地域医療の発展に貢献している“輝く医療人”を多数、輩出しています。

益崎 裕章 教授

琉球大学 医学部 附属病院
臨床研修 進路説明会
第二内科
02/14/2011
平成24年5月15日（火）
琉球大学 医学部 がじゅまる会館

琉球大 医学部 ５回生 倫理総合討論

2011年11月2日

討議テーマ: 幸せな医療人に なるために

琉球大学第二内科 公式ホームページ

http://www.ryudai2nai.com/

御時間の合間に どうぞ 御覧下さい

医学部学生・研修医の皆さんの アクセスを 大歓迎します!

琉球大学　医学部 附属病院　第2内科
琉球大学 大学院 医学研究科
内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座

医局電話：098－895－1146
医局ファクス：098－895－1415
公式 ホームページ:http://ryudai2nai.com/
電子メール　hiroaki@med.u-ryukyu.ac.jp
益崎 裕章（ますざき　ひろあき）

病棟目標:琉球大 病院 第二内科(2010年4月1日～)

- 患者さんに 安心 と 満足 を届けるために 質の高いチーム医療 と 優しさ あふれる温かい 看護 を実践する.

- 『 この病棟に入院して 本当に良かった ! 』 と 患者さんに感じて戴ける 心安らぐ快適な病棟を創る.

- 『 この病棟で仕事が出来て 本当に幸せ ! 』 と 医療スタッフが実感できる 働き甲斐に満ちた病棟を 創る.

琉球大学医学部 第二内科 組織図

平成24年4月1日現在

大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病 内科学 講座

教授：益崎 裕章

医局 秘書
野口 千佳子
山本 奈々恵
片柳 真紀
平田 真美子

糖尿病療養指導士会 (CDEJ) 事務局 秘書
安里 郁子 ●

講師：池間 朋己

講師：友寄 毅昭

講師：屋比久 浩市

医局長：池間 朋己

病棟医長：仲地 佐和子 ●
病棟副医長：平良 伸一郎

外来医長：屋比久 浩市

内分泌代謝・糖尿病・膠原病内科 グループ

池間 朋己 (講師) 屋比久 浩市 (講師)
伊波 多賀子 (特命 スタッフ)
平良 伸一郎 (助教)
植田 玲(助教)● 仲村 英昭 (助教)
砂川 澄人(助教)
中山 良朗(特命 スタッフ)
難波 豊隆 (医員)● 土井 基嗣 (医員)●
河本 絵里子 (松山市民病院 国内留学中)
新垣桂(医員)● 中地あやこ(医員)●

血液内科 グループ

友寄 毅昭 (講師)●
仲地 佐和子 (特命 助教)●
難波 多恵子 (病院 助教)●
西 由希子(医員)●
玉城 啓太 (医員)●
森近 一穂 (医員)●

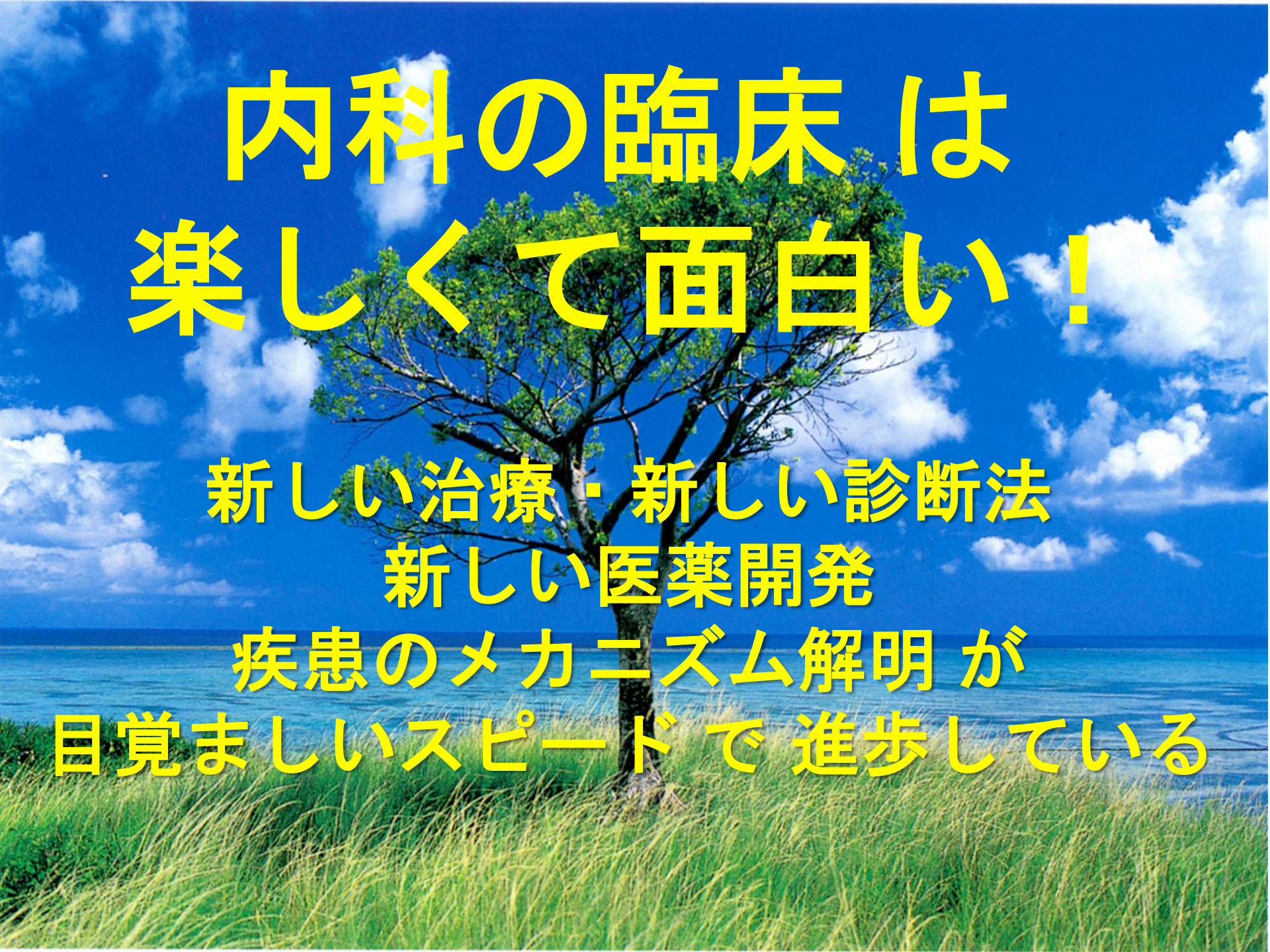
リサーチ コーディネーター
岩渕 敬子 ●
仲本 桂子 ●
大城 朝子 ●

研究支援 学外講師
比嘉 盛丈 ●
山川 研・大城 譲 ●

臨床支援 学外講師
知念 一朗

博士課程 大学院
小塚 智沙代 ●
前田 峰孝 ●
大庭 景介

❤ 女性医師による女性外来 検査・病棟診療 ❤
新川 葉子(医員)●・植田玲(助教)●・山川 いずみ(医員)●


内科の臨床 は
楽しくて面白い！
新しい治療・新しい診断法
新しい医薬開発
疾患のメカニズム解明 が
目覚ましいスピード で 進歩している

専門医 取得の 最短 コース ！ 琉球大 第二内科

日本内科学会 認定教育施設 (内科 専門医)

日本糖尿病学会 認定教育施設 (糖尿病内科 専門医)

日本内分泌学会 内分泌代謝科 認定教育施設

（内分泌代謝・糖尿病 専門医）

日本血液学会 認定教育施設（血液・腫瘍内科 専門医）

日本リウマチ学会 認定教育施設

（膠原病リウマチ内科 専門医）

日本甲状腺学会 認定専門医施設（甲状腺 専門医）

日本老年医学会 認定施設（老年内科 専門医）

日本肥満学会 認定 病院 (肥満症・メタボリックシンドローム 専門医)

琉球大学 第二内科 関連医療施設

沖縄県立 南部医療センター
沖縄県立 北部病院
那覇市立病院
浦添総合病院
北部地区 医師会病院
ハートライフ 病院
豊見城 中央病院
翔南 病院
福岡 和白 病院
天理 よろず相談所病院
京都医療センター

友愛会 南部病院
沖縄県立 宮古病院
沖縄 赤十字病院
中頭病院
大道中央病院
西崎 病院
癌研 有明病院
熊本 中央病院
愛知県立 癌センター
伊藤 病院（東京）

琉球大 第二内科 海外留学・国内留学 の実績（過去５年間 のみ）

【海外】

ウェールズ大学（イギリス）
カリフォルニア大学 サンフランシスコ校（アメリカ合衆国）
シカゴ 大学（アメリカ）
ハーバード 大学（アメリカ合衆国）
テキサス 大学（アメリカ合衆国）
ルイジアナ 大学（アメリカ合衆国)・陽明医科大学（台湾）

【国内】

愛媛県 松山市民病院（内分泌代謝内科）
和歌山県立医科大学 第１内科（内分泌代謝内科）
長崎大学（血液内科）
横浜市立 みなと赤十字病院（循環器内科）
熊本中央病院（循環器内科）
愛知県立 癌センター（血液内科）
国立病院機構 京都医療センター（内分泌代謝内科）
天理 よろづ相談所病院（内分泌代謝内科）
伊藤病院（東京）（内分泌代謝内科）

後期専門医 研修 を通して 内科学会 認定医、
各分野の専門医 を 最短期間 で 取得できます.

途中、他グループや 他科ローテート も可能.

大学院への進学・医学博士 の取得
初期研修２年修了後、大学院に進学できます.
３年次（後期研修１年次）から大学院に入学し、
基礎・臨床研究に携わる社会人大学院コースも
お薦めです！

内分泌

甲状腺・副甲状腺・副腎・下垂体・性腺疾患の外来・入院診療にあたります. 特に副腎、下垂体、性腺疾患は専門的な診断・治療を必要とするため 県内全域から 紹介患者さんが集まります.
ホルモン負荷試験・画像検査を行い、総合的判断・最終診断までのプロセスを研修します.
内分泌疾患を確実に診断・治療できるエキスパートを育成します.

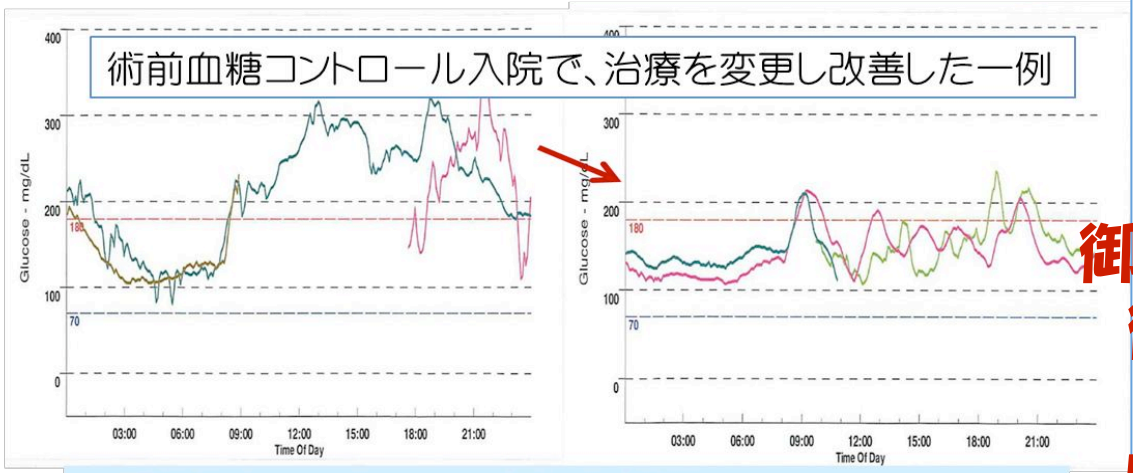
糖尿病・代謝

沖縄県における糖尿病専門医は極めて少ないのが現状です.
多くの専門医を育て、沖縄県の糖尿病を改善すべく大学病院での外来・入院診療の他、数多くの関連病院に医局員を派遣し専門外来診療を担当しています.　また、高度肥満症、メタボ、脂質異常症、痛風 (高尿酸血症）などの代謝疾患の診断治療にCGM・グルコースクランプ最新鋭機器を導入しています.

琉大病院第二内科（9階西病棟）で…

CGM（持続血糖測定モニター）を使った検査入院始めます！

CGMとは、1度の穿刺で最大72時間血糖を測ることができる機械です。5分に1回血糖値を測定することで、血糖値の動きを、なだらかな曲線として見られます。
また、夜間の低血糖の有無を知ることもできます。
この検査をとおして、よりよい治療がご提案できる可能性があります。



- 5日間入院コース→CGM最大72時間
  ＋栄養指導、蓄尿検査等ができます。
- 3日間入院コース→週末等を利用したCGM（48時間程度）のみも可能です。ご相談ください。
- もちろん血糖コントロール入院も受け付けております。

入院のお申込み、お問い合わせ→第二内科医局まで

沖縄県 唯一！

このたび
CGM が これまでの2台から
4台態勢 と なりました！

ご要望 の多かった
検査入院（パス）が
可能に なりました！

御依頼 を戴ければ 速やかに
御案内を 御送り致します

是非、メタボ 療養指導 や
診療方針の決定に 御活用
下さい！

血液内科　研修内容

１）血液腫瘍の診断・治療（化学療法）

２）血液　非悪性腫瘍の診断・治療（免疫抑制療法など）

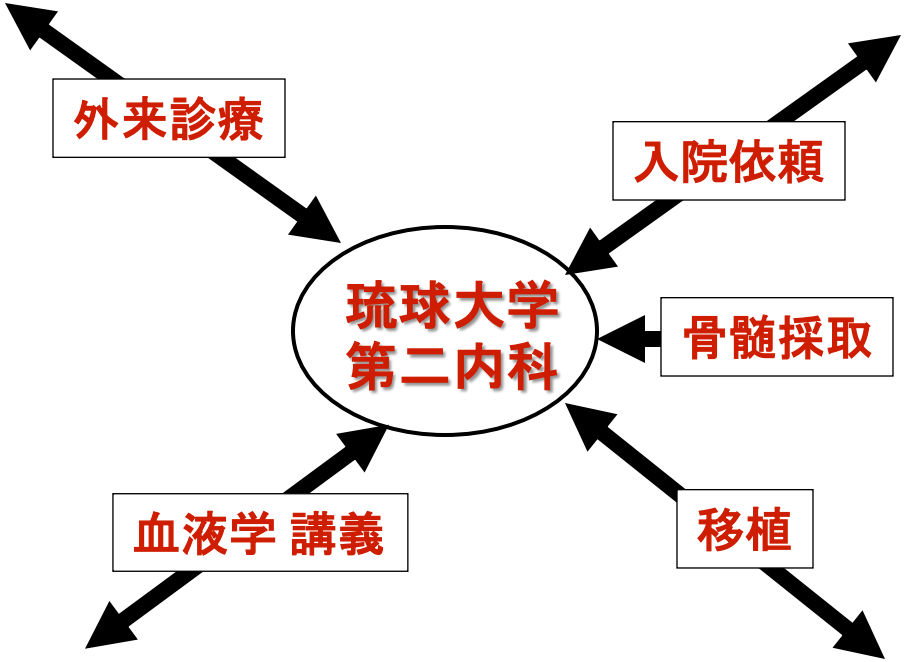
３）発熱性好中球減少症など　血液疾患特有の合併感染症

４）造血幹細胞移植（末梢血幹細胞・骨髄・臍帯血）

５）血友病

沖縄県の成人血液内科 診療協力体制

保健学科：福島 卓也 教授
ハートライフ病院：平良 直也 血液内科 部長



那覇市立病院
中頭病院
ハートライフ病院
沖縄赤十字病院
南部医療センター
県立中部病院

骨髄移植センター
（小児部）

保健学科：福島 卓也 教授
がんセンター：増田 昌人 診療教授
ハートライフ病院：平良 直也 血液内科 部長

ハートライフ病院

膠原病リウマチ内科　研修内容

外来診療・入院診療で

膠原病・リウマチ性 疾患を担当

RA, SLE, MCTD, PM/DM, シェーグレン症候群

リウマチ性多発筋痛症, 線維筋痛症

RS3PE症候群, アミロイドーシス

サルコイドーシス, ANCA 関連血管炎

IgG4関連疾患, 乾癬　その他

内分泌疾患・血液疾患との関連性も深い

全身が診れる総合内科医の修練としても重要な分野

リウマチ・膠原病 専門医 教育認定施設

第二内科 での
後期専門研修・入局 を
大歓迎します！
第二内科・9階西病棟 合同歓迎会

大学院生体験文コーナー

私は肥満や糖尿病に興味を持ち、第二内科の大学院に進学しました。そして、琉球大学　博士課程への入学をきっかけに、かねてよりの希望であった‘食’からのアプローチで研究を進めています。益崎先生はじめ、他講座の先生方にも丁寧にご指導いただき、毎日がとても充実しています。
大学院生活は　楽ではありませんが、積極的に動けば必ず協力が得られると思います。自分で仮設を立てるところから試行錯誤を繰り返して、結果が得られた時の喜びはとても大きいです。
頑張れば頑張っただけの結果と成果が得られる研究室だと思います。興味がある方には、ぜひ充実した大学院生活、そして想像以上の自分の成長を感じてほしいと思います。

（在学中大学院生）

≪代謝内分泌・膠原病グループ≫

○上原　盛幸（うえはら　もりゆき）

当第２内科には、２つの代謝・内分泌グループと１つの血液グループがあります。代謝・内分泌グループの研修では、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患等、早期より数多くの内分泌疾患に触れる事が出来ます。バセドウ病や橋本病、原発性アルドステロン症等一般臨床でもよく目にする疾患を始め、悪性褐色細胞腫や副腎皮質癌等、市中病院ではなかなか経験出来ない大学病院ならではの疾患等も幅広く経験する事が出来ます。糖尿病に関しても、教授の専門が糖尿病ということもあり、経口血糖降下薬やインスリン治療等最先端の情報を学びながら治療にあたることが出来ます。症例数も十分数経験する事が出来、早期より専門医の資格を得る事が出来ます。

教育機関なので、ポリクリ学生や初期研修医の先生方と触れ合う機会も多く、知識をフィードバックしながら新たな気付きを得る機会も多い場所です。皆さんと一緒に同じ職場で楽しく成長する事が出来たらと思います。

○竹本　のぞみ（たけもと　のぞみ）

初めまして。代謝内分泌・膠原病の専門医を目指し、また、糖尿病の予防・啓蒙活動をしたく、今年度より第２内科に入局しました、卒後５年目の竹本のぞみです。私は、今まで県立中部病院で初期・後期研修、県立北部病院で離島義務研修しました。入局する時期としては少し遅いですが、第２内科の先生たちのおかげで、楽しく学んでいます。代謝内分泌・膠原病グループには、血糖コントロールや内分泌精査目的に入院する方が多いため、県立病院と異なり、予定入院の患者さんが多いです。家庭を持つ身としては、計画が立てやすいです。

また、外勤という形で週２回ほど、他院の外来を受け持っています。異なる地域の開業医や勤務医など諸先輩方や看護師さんと関わることができて、勉強になります。

沖縄県の生活習慣病の改善に興味がある学生さん、第２内科に遊びに来てください。

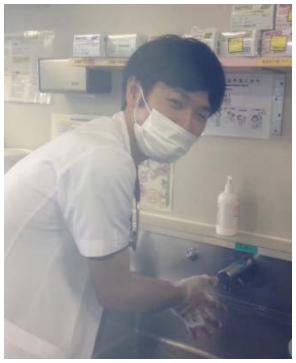
○玉城　泰太郎（たまき　やすたろう）

今年度から第二内科に入局させていただくこととなった玉城泰太郎です。代謝・内分泌グループに所属しています。第二内科は医局もきれいにリフォームされているので業務が大変でもリラックスできる環境が整っていますし、メンバーも優しく親切でいい雰囲気だと思います。

糖尿病は今世界で最も重要な疾患であり、その治療法も現在進行形で発展中なのでそれを直に体験できることはとても魅力的だと思います。

また、糖尿病は医者が一方的に治療すればよくなる病気ではなく、患者本人の意識・行動が重要であり、代謝・内分泌医はあらゆる医師の中で最も患者自身と向き合うことが大切な医師だと感じており、皆様もそれを第二内科で感じてみてほしいと思います。

○山城　清人（やましろ　きよと）



３年目の代謝内分泌グループの山城清人といいます。熊本高校卒、琉球大学医学部２５期生です。研修は熊本医療センター、熊本大学で１年ずつ行いました。琉球大学第二内科に帰ってきて感じたことはどの先生方も臨床能力が高く、それでいて親身に指導してくれる雰囲気の良い、働きやすい環境だなと思っているところです。研修医の先生方ものびのびと仕事をしていると思います。特別な手技はなく、生活習慣病を扱う機会が多く、大学の中でも特に家庭医や一般内科に近い存在でありながらも、稀な内分泌疾患など専門性に特化した分野まで幅広く診療をしています。糖尿病、代謝内分泌、膠原病などに興味のある方、苦手意識のある方、これからの医学・医療に携わる方、ぜひ気軽に病棟や医局に遊びに来てください。一緒に沖縄の医療から良くして行きましょう。

○與那嶺　正人（よなみね　まさと）

初期臨床研修を終え，今年度（2013 年度）より琉球大学第二内科に入局し，内分泌・代謝グループに所属しています。私の目指している医師像が 2 つあります。1 つはコメディカルとの和を大切にし，患者さんに寄り添う医療をしたいということ，そしてもう 1 つは診断力のある医師になりたいということです。第二内科には自分の目指す医師像に近づける環境があります。沖縄全土から貴重な症例が集まって来るので，診断や治療に苦慮する症例も多いですが，文献を探し，頼りがいのある指導医に相談しながら，患者さんにとってより better な治療を模索する毎日はとても充実しています。病棟の看護師も患者さん想いの優しい方ばかりで，治療のヒントを教えてくれることも度々です。内分泌・代謝内科は治療効果がなかなか実感されない疾患も多いですが，今行っている自分の医療が 10 年後，20 年後の患者さんの未来を変えていることを信じて診療をしています。是非，第二内科で一緒に働き，沖縄の未来に貢献しましょう。

≪血液グループ≫

○島袋　菜津紀（しまぶくろ　なつき）

４月から第二内科に入局した島袋　奈津紀です。血液グループに所属しています。血液グループでは幸い体験も少なからずありますが、死に直面する機会が多い分、元気に退院していったときの喜びはそれ以上で、とてもやりがいのある分野です。先生方も看護師さんも患者さんも個性豊かで、楽しく働かせていただいています。今年は新入局の同期が多いのが第二内科の自慢です！７人で切磋琢磨しながら、私も一人前の血液内科医になれるようにがんばります。

ちなみに子供２人のママでもあります。今年から長男が幼稚園に入園し、毎朝子供を幼稚園へ送り届けてから出勤しています。グループの先生方や家族に支えられながら、なんとかなっています。当直も希望に合わせて少し減らしてもらいました。後輩たちのお手本になれたらいいなーとほんの少し思っています。女子学生さん、女子研修医さん、女性に優しい男子諸君、気軽に声をかけてくださいね。

○手登根　伊織（てどこん　いおり）

私は沖縄県立南部医療センターで初期研修および内科後期研修を行い、卒後５年目になります。今年度、第二内科に入局し血液グループに所属しています。私は患者と真摯に向き合い、診療を行っている血液内科医と出会い、その背中をみて血液内科を目指すようになりました。一般内科としての勉強を重ねる一方で、専科の知識と経験を積むために第二内科へ入局させていただきました。

第二内科はとても明るく、暖かい雰囲気に囲まれています。今年度は代謝内分泌グループと血液グループあわせて７人入局しました。モチベーションの高い同期にも恵まれ、本当によかったと思っています。研修医の先生方は患者さんの容態によっては大変な時もあるかと思います。でも、第二内科を回る際にはぜひ一緒に頑張りましょう。学生さんには、限られた期間で伝えきれないことも多々あるかと反省していますが、何でも聞いてください！！

一緒に沖縄の代謝内分泌・血液を担っていきましょう！